

01 環境

大地と生きものたち、そしてもちろん人間も、水なしでは生きていくことができません。豊かな水は、北海道コカ・コーラボトリングの製品の源でもあります。北海道の水資源を守り次世代へとつないでいくことは、水資源を使う私たちの責任です。

北海道の価値ある自然を次の世代へ。

ウォーター・ニュートラリティー

当社の取り組むウォーター・ニュートラリティー

に札幌市と締結した「環境事業に関する協定」に基づいて、白旗山の森づくりを推進するなど多角的な取り組みを進めています。

当社の製品は、北海道の豊かな大地に育まれた良質な地下水を使ってつくられています。「ウォーター・ニュートラリティー (Water Neutrality)」とは、こうした製品づくりの過程で使った量と同じ量の水を、自然に還元するという考え方です。コカ・コーラシステムでは「2020年までに水資源の持続可能性におけるグローバルリーダーになる」という世界共通の目標を掲げ、製造過程における水使用量削減「リデュース (Reduce)」、製造過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」、地域の水資源保護「リプレニッシュ (Replenish)」の3つの要素でウォーター・ニュートラリティーの達成を目指しています。具体的には、札幌工場の製造工程での節水や自然にやさしい排水処理のほか、札幌工場で使用している地下水の水源地が札幌市清田区の白旗山であることから、2011年



エレクトロン・ビーム殺菌

Reduce

札幌工場では2012年より、PETボトル製品の製造ラインで、エレクトロン・ビーム(電子線)によるPETボトルの殺菌を行っています。従来の洗浄に比べて洗浄水の使用量を大幅に減らすことに成功しました。



ラグーン処理方式

Recycle

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活用して余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式(※)」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けて、高度な処理を実現させています。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

Replenish

コカ・コーラシステムでは、2006年から次世代を担う子どもたちが植樹や自然体験を通じて「森」と「水」の大切さについて学ぶことを目的に、「コカ・コーラ」森に学ぼうプロジェクトを行っています。当社では2011年から、札幌工場で使う地下水の水源地である白旗山を舞台に、札幌市森林組合や市民団体と協働で、「コカ・コーラ」森に学ぼうプロジェクトと題し、植樹や湧水の観察、木工クラフト体験などを毎年行っています。2017年には当社社員と地元の子どもたち約30人が参加して、水源の森へミズナラ約100本を植樹しました。

「山のがっこう」

Replenish

2013年、北海道大学大学院環境科学院との連携によって、「山のがっこう」を開校しました。これは環境保全と地域社会の発展に寄与することを目的に、白旗山をはじめとする北海道の自然を教育と研究を通して次世代へとつないでいくことを目指した取り組みです。対象は、小学生から高校生。北海道大学の大学院生が中心になって、地域の関係者の皆さまと連携しながら、白旗山でのフィールドワークや、水の科学を学ぶ場です。伝える側の大学院生と受け取る子どもたち双方が刺激を受け合っており、価値ある学びを実践しています。

2017年には小学生を対象に、森と地下水の関係や植樹の意味を伝えたほか、高校生には水循環をテーマに、電気伝導度や安定同位体比を用いた分析などを行いました。



COLUMN

北海道の大自然に育まれた豊かな水と大地の恵みをお届けします

札幌工場の製品はすべて、白旗山を水源とする地下水で作られています。それは、白旗山に降り注いだ雨や雪が、長い歳月を経て不純物などが取り除かれた良質な水。これをPETボトルに詰めたのが、ナチュラルミネラルウォーター「い・ろ・は・す」です。また、当社ではコーヒーなどの製品にも北海道産の砂糖や乳・生クリームを使うなど、地産地消を推進しています。

